



たけだ かつのり
武田 勝義さん（門井）

市内には、歴史的価値があるものがたくさんあることを、多くの人に知ってもらえればと思います。

秋 も深まり市内もイベント最盛期になりますが、中世の歴史絵巻を再現した「小栗判官まつり」が1年の締めくくりです。小栗判官伝説は、室町時代の小栗城城主がモデルになり浄瑠璃や歌舞伎でも有名です。今年は、12月2日（日）に新治小学校をメイン会場に開催されます（イベントの詳細は裏表紙参照）。29回目の開催となる今年は、判官役に俳優の「照英」さんを迎えます。地元小学6年生の児童は武者行列に参加することで地元の歴史に触れ、記憶に残るものとなっています。

「小栗判官の里」と「にいばりの里」

中世の郷土の英雄をたたえた祭りや 史跡に溢れる協和地区を紹介します

筑西4大イベントの最後を飾る小栗判官まつり

国指定史跡「新治郡衙跡」と「新治廃寺跡」

小 栗判官のにぎやかさとは対照的に、静かに光りが当たり始めた史跡があります。奈良時代の常陸国新治郡に存在した国指定史跡「新治郡衙跡」（郡の役所）と「新治廃寺跡」（郡の大寺）です。筑西市では「にいばりの里事業」として、農業資料館（久地楽）を含むこれらの史跡を保護・PRを通じて地域の活性化、にぎわいの創出を図る事業



新治郡衙跡 全国に391ある郡衙で初めて発掘調査されたことから、この地を訪れる人もいます。

に今年から着手しています。古郡在住で市文化財保護審議会委員の袖山任男さん（写真右端）は、この場所に駐車場が整備されれば訪れる人の利便性が高まると考えています。国指定史跡であることから、地下30センチ以上の耕作・造作は制限されていて、この地にはまだまださまざまなものが眠っていることが想像できます。1万点にもなる出土品は、現在は桜川市の真壁伝承館に預けられています。筑西市内にも保管、展示のできる場所があればと思います。

新治廃寺跡周辺の環境保存整備の活動を続けている「えのき会」代表の海老沢友枝さん（写真右2人目）



新治廃寺跡 えのき会や地元の地権者による除草作業により保全されています。

は、駐車場がないために観光資源とするにはまだ体制が整っていないことを話していました。近くにある農業資料館とともに、この地を訪れた人におもてなしが必要と考えています。

協和地区を歴史観光ゾーンに

お 二人に話を伺って、個人で出来ることの限界、市民活動による存続の難しさを感じました。

協和地区には「小栗城跡」、「小栗内外大神宮」、「うわばみ池」など、多くの魅力があります。地区全体が歴史観光ゾーンとして多くの観光客でにぎわうことを目標に、できるところから助け合い、協力していければと思います。



自治会連合会協和支部長の増淵俊夫さん（写真左端）や筑西市文化協議会会長塚田勝雄さん（写真左2人目）と、にいばりの里について意見交換をさせていただきました。